

第3回 第3次江田島市総合計画審議会 議事録

■日時・場所

日時： 令和5年12月14日（木） 10:00～

場所： 大柿市民センター 集会室

■次第

- 1.開会
- 2.会長あいさつ
- 3.協議事項
 - (1) 第3次江田島市総合計画基本構想（案）について
 - (2) 策定スケジュールについて
- 4.その他について
- 5.閉会

欠席：あり

代理出席：永井委員（広島県 DX 推進チーム）→森田谷参事

前川委員（広島県健康福祉局医療介護基盤係）→西山主査

高先委員（江田島市 PTA 連合会）→高先常任理事

今井委員（一般社団法人広島県観光連盟）→谷口経営企画・マーケティング事業部チーフ

■会議風景



■参加者

* 敬称略・順不同

属性	氏名	所属	出席
委員	永井 匠	広島県 DX 推進チーム 政策監	欠席
	森田谷 智昭	広島県 DX 推進チーム 参事（上記代理出席）	出席
委員	前川 昌士	広島県健康福祉局医療介護基盤課 担当監	欠席
	西山 浩士	広島県健康福祉局医療介護基盤課 主査（上記代理出席）	出席
委員	高先 泰弘	江田島市 PTA 連合会 副会長	欠席
	高先 享二	江田島市 PTA 連合会 常任理事（上記代理出席）	出席
委員	今井 雅敏	一般社団法人広島県観光連盟 経営企画・マーケティング事業部長	欠席
	谷口 慎二	一般社団法人広島県観光連盟 経営企画・マーケティング事業部チーフ（上記代理出席）	出席
委員	藤谷 吉秀	広島県地域政策局中山間地域振興課 課長	出席
委員	長坂 睦子	江田島市教育委員会 教育委員	出席
委員	濱谷 一真	江田島市自治会連合会 会長	出席
委員	森下 恵子	認定こども園保護者会 代表	出席
委員	森藤 清彦	安芸地区医師会江田島ブロック ブロック長	出席
副会長	堂野崎 平	江田島市社会福祉協議会 会長	出席
委員	小原 正清	江田島市農業委員会 会長	出席
委員	吉岡 憲伸	江田島漁業振興協議会 監事	出席
委員	泊野 秀三	江田島市商工会 事務局長	出席
委員	中野 伸一	江田島市観光協会 事務局長	出席
委員	山縣 透	公益財団法人ひろしま国際センター 交流部長（兼）総務課長	出席
会長	上水流 久彦	県立広島大学 地域基盤研究機構長 教授	出席
委員	塚井 誠人	広島大学 大学院先進理工系科学研究科 社会基盤環境工学プログラム 准教授	欠席
—	明岳 周作	江田島市長	出席
事務局	畑河内 真	江田島市 企画部 部長	出席
事務局	飴野 秀樹	江田島市 企画部 企画振興課 課長	出席
事務局	花野 大介	江田島市 企画部 企画振興課 係長	出席
事務局	吉田 大輔	江田島市 企画部 企画振興課 主任	出席
事務局	八木 周吾	ランドブレイン株式会社 広島事務所 所長	出席
事務局	駒井 達也	ランドブレイン株式会社 広島事務所 所長補佐	出席

■記録

1.開会

－ 事務局より開会あいさつ（記録省略） －

2.会長あいさつ

会 長	この会議も大詰めになってきました。資料が配布されていますが、江田島市がめざすまちの姿という4つの案があり、本日はこれを最終的に決めていくことが大きな作業です。内容を吟味しながら、どのような姿がふさわしいのか、または一部改正した方がよいのかという意見をいただきながら、最終的な内容を決めていきたいと思っています。皆さんの審議と協力をお願いします。
-----	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

3.協議事項

(1) 第3次江田島市総合計画基本構想（案）について

【序論】

－ 事務局より説明（記録省略） －

委 員	4ページの2-1江田島市を取り巻く社会の潮流についてです。「産業・生活などあらゆる分野にデジタル技術が活用される時代」という部分ですが、まさに私たちも県で市町と一緒に取組んでいます。気になる部分があります。この下の文章に最後「DX化」とありますが、DXという言葉は一般的には「化」をつけないことになっています。デジタルトランスフォーメーション自体が、状態変化を表していると思うため、「化」をつけない方がよいと思います。また、このDXの捉え方は様々ありますが、いわゆる今の生産性向上や利便性向上、そして効率化だけではなく、ビジネス変革といえますか、新たなサービスを生み出すという部分も概念として入ると思います。例えば、2行目の「各種産業の生産効率向上やビジネス変革」といった、一歩進んだ概念も含まれることを記載してほしいと思います。
委 員	9ページの「美しい環境づくりへの積極的な取組が必要」という部分について、江田島市の海上・海岸では、漂流ごみや漂着ごみが多く見られますとありますが、どのようなゴミが多いですか。
事 務 局	江田島市の海岸に漂着するごみは、発泡スチロールや牡蠣の養殖で使うプラスチックごみが多いと認識しています。
委 員	牡蠣養殖で出ている漂流ごみが多いという部分について、おそらく発泡スチロールやプラスチックごみだと想像します。ごみを出さないようにする仕組みを作るのは難しいですか。
事 務 局	実際のところ、牡蠣業者が使っている素材を変える必要があります。例えば、牡蠣をつるす時に使っているプラスチックのパイプや、またいかだを浮かすために使っている発泡スチロールなどです。それらが何度も崩れ、流れてしまうことがあるため、素材を変えてもらう必要があると思っています。そのようなごみが流れていることは、漁業関係者も気にしています。新しい技術でそのようなごみ流れないように、代替素材が開発されています。しかし、お金がかかります。事業者からす

		ると、それを導入するためのコストは考えにくいようです。しかし、市としても課題は課題だと思っているため、それがもし行政が手助けをおこなうことで、それらが流れなくなるようであれば、そのようなこともこの第3次の具体的な取組の中に入れることができると考えています。
委 員		プラスチックや発泡スチロールはビーチクリーンを行っても、なかなか扱いにくいごみになっていくと思います。一生懸命子どもたちや大人たちが掃除しても、おそらく元を改善していかないと、この状態が継続したままだと思います。ぜひそこは、お願いできればと思います。
委 員		4ページで「二地域居住」の考え方が注目されているとイメージで書いてありますが、これが長い間イメージのままです。具体的に国は動いていますか。行政でも住民税の問題や住民票の扱い方、そして各々のサービスを受けることができるのか、おそらく様々な問題があると思います。これは何か目標があって動いていますか。ただのイメージですか。
事 務 局		具体的な制度面、先ほど言った税制など、そのようなことを具体的に国が行っているかどうかといえば、行ってはいません。いろいろなライフスタイルという文脈です。移住することもあれば、自分の居住地とは別に拠点を設け、行ったり来たりする暮らし方もあるということです。どちらかといえば、そのような暮らし方もあるという宣伝のようなことを国はされていると思います。 江田島市でも動いているのかという点では、積極的に推進しているわけではありませんが、そのような働き方や住み方を望むのであれば、それはそれで来てもらっても大丈夫です。そのような考え方です。
委 員		一応計画であるため、これを計画に掲載しているからには、何かしら計画する必要があると思います。
事 務 局		これは、全国的な潮流があるという全国の流れを載せています。
委 員		表紙に江田島市総合計画と書いてあります。
事 務 局		江田島市総合計画を作るにあたり、全国的にはこのような流れがあることを踏まえたうえで、具体的な取組を考えたいと思っています。
委 員		具体的な取組を行う必要があります。
事 務 局		二地域居住に限らず、いろいろな人が行ったり来たりする交流は、後ほど出てきますが、キーワードにしています。
委 員		それは確実に計画すると受け止めてよいですか。
事 務 局		全般的な交流という文脈の中に、「二地域拠点」が入ってくると思います。
委 員		8ページの「ふるさと教育などにより地域の愛着を醸成」という部分について、里海教育は拠点となる「さとうみ科学館」という施設があります。ぜひその名前を入れて、からめて紹介してほしいです。
事 務 局		このふるさと教育の中には、学校教育や生涯学習、もちろん里海教育も含まれま

		す。すべて含めたうえで、ふるさと教育という記述にしています。里海教育はここに含まれると認識してほしいです。
委 員	員	マリンアドベンチャーなども含め、名前だけでも入れてほしいです。
事 務 局	局	字数もありますが、入れることが可能であれば入れたいと思います。
委 員	員	追加質問です。江田島市の海上・海岸では、漂流ごみや漂着ごみが多く見られますとあります。先ほど回答があったように、発泡スチロールやプラスチックごみ、漁業関係、牡蠣のごみです。そのような素材を扱っているため問題になっており、その素材を新しいものに変える必要があるという意見がありました。私もその地域に住んでいるため、いつも話しているのですが、海岸に行くと、いつも発泡スチロールやプラスチックごみがあります。私が思うことが1点あります。漁業関係の業者はごみの撤去やごみにならないようにしています。ごみを撤去し、自分たちできれいにする活動を時々行っています。その活動の指導を行政が確実に行ってもらわないと、特に海のごみが汚いです。小中学生のこどもたちも簡易清掃を行います。いつも彼らが言うのが、「いつやってもものすごく量がある。とんでもない量がある」という言葉です。江田島市は海に囲まれているため、当然陸上の草刈り等も行っていますが、それ以上に海岸をきれいにする必要があると思います。委員が言われたように、これは徹底した行政の指導等も含めて対応してほしいと思います。
会 長	長	言葉を統一していない点が気になります。例えば、9ページの右上の青丸の3つ目で「事業者の誘引、挑戦を応援するとともに、IT技術の活用等、人口減少に対応した産業づくりなど」とあります。“等”と“など”、漢字とひらがなが混じっており、これは全体で統一していません。中身が問題ないためよいのですが、やはりここまで混ざっているとどうかと思います。字数の関係もあるかもしれませんが、他にも“等”と“など”が混ざっているため、見た目を統一してほしいです。

【10年後のまちづくり】

「市民、事業者等の想い」

－ 事務局より説明（記録省略） －

委 員	員	13ページの市民ワークショップの主な意見で、「住む人と来る人も満足するまち」とあります。先ほど説明があったように、観光等で外部に良い印象を与えているので、住んでいる人もメリットや満足感を感じられるようにしたいとあります。これは私もよく聞いてきた点ですが、具体的に何をどうしたい、どうしてほしいという意見はありましたか。
事 務 局	局	やはり来てもらうためには、まちが便利になる必要があるという意見がありました。このようなことに関しては、江田島市内に住んでいる人に対しても非常に有効だと思うため、それを考えてこのような意見が出てきました。
会 長	長	12ページの一番下から2行目の「様々な主体（移住者、外国人、子育て世代、労働者、高齢者等）」という部分です。なぜこの中に労働者を入れたのですか。労働者だけが、じっくりこないと思います。例えば、移住者、新しく来るマイノリティ、外国の人もここに入ります。子育て世代もいろいろ苦労しており、高齢者も大変動

きづらくなるという点から入ると思いました。ですが、労働者を入れた意図が分かりません。また、様々な主体ですが、ここで書いてあるのは、いわゆる市民で、ここに書いていない人々は、書かなくてもよいのかという問題があります。わざわざここに取り出して書いているのは、暮らしにくさを感じている人々にも関わってほしいという意図かもしれませんが、この文章には工夫が必要だというのが、私の正直な感想です。そして、こうなってくると障がい者の人もいるため、逆にここがないと、なぜ無いのかと思うと思います。今すぐ別の言葉に変えてほしいわけではありませんが、この表記は修正してほしいです。

そして、私も分かるのですが、先ほどと同じ話で、12ページ上部の『市民』が考える江田島市の魅力・期待するまちの姿の部分です。「若者が住みたい、高齢者等が住みやすいまちが望まれており、その結果、人口増、活気の創出など」とあります。“等”と“など”は同じ問題ですが、この“など”は何か他にも効果があることを指していますか。人口増と活気の創出以外に具体的なイメージがあり、字数制限で入れることができないため、“など”を入れたのですか。もしくは、ただつけただけですか。私も文章を書く時に“など”を入れると便利だと思っているため、入れることがあります。わざわざ“など”を入れている理由を考える必要が出てくるため、“など”は丁寧に使った方がよいと私は考えます。その文言について検討するということがよいですか。何かありますか。

事務局 『市民』が考える江田島市の魅力・期待するまちの姿の“など”については、市民からは生活のしやすさ、暮らしやすさという意見があり、この中にはそのような意味も入ってくると考えています。ここは再度整理します。

会長 極論をいうと、暮らしやすさが出てくるとよいということですね。

「江田島がめざすまちの姿」

－ 事務局より説明（記録省略） －

委員 3点あります。1点目は、2段落目の「近年は、移住者やUターン者の増加や、様々な企業・小規模事業者の市内進出」という記述です。どの部分に惹かれて、魅力やメリットを感じたのか、その記述があると、より江田島市が持っているポテンシャルがPRにつながると思います。内容を肉厚にした方がよいと感じました。半分感想ですが、そこを検討頂いてはどうかと思います。

2点目は、その下の段落の最後の行です。「人口の確保や賑わいづくり」、先ほど“が”と言っていましたが、文章には“を”とあり、ニュアンスは“が”と“を”、どちらがよいですかとなると、賑わいづくり“が”求められていますとなると、概念の話で恐縮ですが、賑わいは与えられるものなのか、それとも市民で自ら作り出していこうという意気込みを書いたものなのか、どちらの考え方なのか分かりませんでした。

3点目は最後の「段落の活発な動きを市内外に発信していき」という部分です。活発な動きは何を指しているのか明確に書いた方がよいと思います。

事務局 まず1点目については、市のメリットを一言、今後検討して修正していきたいと思えます。

	<p>2点目は、市民が求めているということで、“が”に修正します。</p> <p>3点目は、活発な動きという言葉は、今。江田島市の中で行われている交流・産業誘致や移住等、魅力の発信やPRを市内外に発信したいという意図で入れました。</p> <p>読んで分からなかったという趣旨だと思うため、文章の表現を考えていきます。</p>
委員	<p>今、財源が厳しいですが、あまり触れていません。例えば中段に「人口が減少し、ヒトやモノが限られていく中で」とあります。やはり財源が非常に今後厳しくなってくるため、それを有効に活用するという内容を入れることが必要だと思います。</p> <p>そして、その下の段に「江田島市に関わる「みんな」が『まちをよくしていこう』という想いを持ってまちづくりに参画し」とあります。地域共生社会のことです。行政サービスの受け手ではなく、地域の担い手でもあるということ。まちづくりに参加するのはもちろんですが、自分たちが地域を作っていくことを、まちづくりだけではなく、地域のいろいろなサービスや産業の部分で、自分たちが受け手ではなく担い手として、地域共生社会を推進することも、詳しく書いた方がよいと思います。</p>
会長	<p>この部分でいうと、例えばめざす姿には出ていませんが、上から3行目に「高齢者・障がい者」という言葉が出ています。ここは逆にいうと、外国籍市民という言葉が出ていません。他の部分との整合性も含め、いろいろな意見を踏まえて、この部分の文章の整理が必要だと思います。</p> <p>また、これは私の好みのため、皆さんがどう思うかわかりません。気持ちはわかりますが、中段にある「総力戦」という言葉を強調している点が気になります。みんなで戦うという意味なのですが、無くても意味は通じると思います。総力戦という言葉に戦争のイメージがあるのであれば、無くてもよいと思います。文言の感覚はいろいろあるため、内部で検討してほしいと思います。</p>

「重点テーマの方向性」

－ 事務局より説明（記録省略） －

委員	<p>外国人という言葉がないという先ほどの会長の指摘と関連しますが「多様な人材・団体の交流やチャレンジを促し、まちの賑わい・活力を創出する」という部分です。おそらく移住者もですが、外国人材からも選ばれるということを書いておく必要があると思います。これから技能実習の制度も変わり、日本、広島、江田島市自体が選ばれることを非常に考えていかないと、技能実習生も都会にばかりいく時代になってしまいます。それも含めて、選ばれるという観点で、人という部分では必要だと思いました。</p>
会長	<p>17ページの暮らしの指標で、30代以下の目標についてです。実は市民全体でも、30代の人いろいろな意味で数値が低い状況です。それを全体と同じようにパーセンテージを上げていくということで作成しているのであれば、ある意味、今の若い人たちに満足してもらうことを行っていかないと、難しいと思います。この重点テーマを見た時に、みんなが幸せになるとは書いてありますが、若者にはどう見えるのか気になりました。例えば、様々な分野に新技術を積極的に取り入れていくこ</p>

	となのか、もしくは整合性を考えた時に、若者をより上げていくことが江田島の産業の課題だとすると、それがこの重点テーマとどう絡むのか、説明できるようにしておいてほしいです。もしくは、それが分かる文言がある方が、17 ページとの整合性が取れると思いました。
事務局	説明に若い世代という言葉を入れていこうと思います。やはり、若い世代が求めていることは、市民アンケートやワークショップの時に顕著に出ていたのは、より賑わいがほしいということで、明らかに若い人が求めていました。まちの賑わいという言葉も入ってきます。そして、自分たちが暮らすのであれば、自分たちが安心して暮らすことができる、交通などが充実した生活基盤がほしいということでした。そのようなことを強化することで、若い人の数値を伸ばしていきたいと思います。言われるとおり、重点テーマを読んだだけでは、若い人の意見をどう取り入れたのか読みづらいと思いました。若い人はこのようなことを望んでいるということが分かるような文章を考えていきたいと思います。
委員	いろいろな人とのつながりや、島の豊かさのアピールを行い、人口を増やしていこうとすることが計画だと思っていました。ですが、国の人口も減り、江田島市も10年後の人口が減るため、新技術でそれを補うように聞こえました。人がいなくなり新技術を入れると、お金ばかりかかり破綻すると思います。基本的には、人口を増やしたいという計画だと思っていましたが、どう考えていますか。
事務局	正直に言うと、江田島市の人口で一番のボリュームゾーンは、70歳から74歳で、その世代が一番多いです。今後10年間を考えた時に、このゾーンの人が亡くなると考えると、全体的な人口増は厳しいと思いました。では移住者でそこをカバーできるかというと、日本全体がそもそも減っている状況です。今後10年間の目標を考える時に、人口増という概念で考えることは、正直に言うと、無理があるという考えです。もちろん、そのような考えでも人口増まではいかずとも、減り幅を減らすなど、そのようなことは行っていこうとは思いますが、そのような前提を踏まえたうえで考えると、お金がかかるとはいえ、どんどん人がいなくなって、不便になり、そして暮らしにくくなっていきますが、それでよいのかという部分があります。当然、江田島市が取り組むことができる財源にも限りはあるため、影響の範囲にも限りはあると思いますが、可能な範囲で人が代替できるようなビジネスに取り組むことができれば、人が減っても暮らしていくことができる、そのようなまちを作っていきたいという思いです。
委員	財源は人ではありません。人がいない場所にはお金は生まれません。人がいないとお金は生まれません。計画であるため、人口が減って当たり前では計画ではありません。それでは計画になりません。それでは前提条件として尻すぼみです。
事務局	尻すぼみとありますが、実際問題、計画の中では人口が増えるなど、そのような計画を立てるかということ、それはそれで全体の実態、現実とはかけ離れています。江田島市の人口は、前のページにも出てきましたが、令和27年には10,000人程度

になるというデータが出ています。その減り幅を抑えることは、当然だと思います。そのような計画です。また、人が減っていけば、財源も使うことができなくなっていくことも間違いないです。それはそのとおりですが、その中でできる範囲にはなりますが、今後10年を考えた時に、島に住んでいる人が、人は減っていくけど幸せに暮らすことができる、そのようなまちを作っていくという気持ちでこの10年間を過ごしていく、そのつもりで考えています。

会長

この人口の話は、私も他の自治体で関わっていますが、議論にもなる部分です。正直なところ、これまでの中でも、やはり人口増加はすべきだという意見と、やはりなかなか人口増加が望めない中で、現実には即した対応が必要だという意見に分かれてきました。結論からいうと、計画を立てる時に、例えば人口が減ると入ってくる予算も減ってくるため、それがある程度確実だという状況の中で、それを想定しない計画は難しいという意見もあります。そのため、正直なところ、現実的には多くの自治体が、人口減を前提とした計画を作っています。これに対して、当然委員の中から不満や厳しい意見があるのが現実です。ですが、最終的には、できるだけ人口減にならないようにしていくという目標を設定しながら、計画を立てていくこととなります。そのため、今の意見は確実に受け止め、できるだけ人口減につながらないような目標を考えていきたいと思います。そのような計画を出すと、逆に「それ本当にできるのですか」と突っ込みがあり、「人口増をするようなことが、ちゃんとアイデアとしてあるのですか」と議論になることがあります。逆にそれはそれで、計画の妥当性を問うこととなります。そのため、理解をしてもらったうえで、検討し考えていってほしいです。

委員

人口増、人口減と言っていますが、一番大事なことは、子育て世代が住みやすい環境を作ることです。今いる子育て世代がこの江田島市から出ていかないように定住すること、そして都会から江田島市に若い世代を引き込むことが大事です。私は定年になるまでは、広島市内で長く仕事し、学生時代も広島市に出ていましたが、若い人が広島市によく来ていました。広島市役所の人が来ていましたが、その人は、「今の若い人たちにどうやって定住させるか。ここが大事だ。」と言っていました。今都会ではなかなかそのような人は住むことができない環境になってきました。道路が混みあい、生活環境が変わって、「あなたのいるところはいいいね。生活環境がものすごくいい。海があつて山があつて川がある。それもすぐ家の周りにある。」と言っていました。町でもそういったことで上手い具合に交流できないかといった話もありました。やはり、江田島市の中で、子どもたちまたは子育てする人たちが、本当に安心して暮らすことができる江田島市を作っていけば、自動的に、今いる世代と、そしてSNS等でよい噂がたてば、都会から江田島市に引っ張ってくるができます。私は毎回そう考えます。ただその原因も、減少減少というのも空しいです。しかし、やはり子育て世代が多く来ると、当然子育て世代の方に税金をどんどん払っていただける。例えば、奥さんは江田島市にいて、ご主人は江田島市や広島市で就労すると税収が増える。子育て世代がいかにして、この江田島市に貢献したいと思うことができるのか、非常に大事だと思います。やはり、このような部分

もこの計画の中に含めてほしいです。

会長 若い世代とは別に子育て世代がありますが、非常に重要です。これも他の自治体でもありましたが、例えば「子育て世代、若い世代を一から入れるべきじゃないか。」という意見と、「いやいや、やっぱり高齢者が住みやすくないとだめなんだ。」という意見がありました。他の市町だと、特に意見がわかれて大議論になってしまったことがありました。総合計画であったため、両方必要だという話で落ち着きました。ただ、言われていたとおり、非常に正しいことです。やはり若い世代にどう満足してもらうことができるのかという議論が出てきています。そのため、江田島市の計画の中で、江田島市の考え方をどうするのかということについて、やはり文言の中で、先ほど若い人についての内容を入れる、若い世代、子育て世代という言葉がありました。その書きぶりから、この自治体がどの部分に力を入れていくのか分かるようにすることは必要だと思いました。今出た人口増と、お二人の委員の意見を踏まえて、その重点テーマの書きぶりについては、検討してほしいと思います。

委員 私自身も県外からこちらに来て1年半たちました。私の周りは夫が働きに行って、週末など仕事が無い時に帰ってくるという生活を送っています。夫は、「すごい江田島市って、癒されるんだよね。仕事の疲れなどを帰ってきて家でゆっくりと空眺めたり、遊びに行ったり、散歩したりとかですごいいいまちだよね。」とっています。そのような、外で頑張っていて、家に帰ってくつろぐことができるようなまちだと、私自身も思っています。住んでいて、教育にお金がかかるとは言いますが、私の家はテレビやYouTubeはありません。本と自然が教育だと思っており、そのような教育方針で教育しています。そのため、逆に考えると、目の前の海や山、まちや里に教育的要素は多くあり、それは無料です。自然という部分で言うと、お金がかかりません。そのような目線で教育内容の充実を図っていくと、広島市内に無い魅力になると思っています。県外で暮らしている時は、こどもが泣いた時の声や走り回る音を気にしていました。そもそも土地がない状況でした。ここに来て怒ることもありますが、そこまで変な怒り方をしなくて済んでいます。土地があるため自由に走り回り、海で泳ぐなど、そのように過ごすことができます。その魅力を、上手く伝えていくやり方を、お金をかけずに考え、より江田島市のよい部分を伝えていけばよいと思います。江田島市の外から移住して、外に仕事にいき、週末や日常的に帰ってきてゆっくりするというスタイルは、日々のQOLなど、そのような生活の質の向上を図ることができると、私はこの1年半住んでいて感じました。もちろん、医療などお金がかかることも多くありますが、そうではない部分の視点でも、工夫しながら教育を考えていくのもよいと、ここに来て非常に感じました。

会長 そのような若い子育て世代や働いている人に対してPRのあり方もあると思うため、具体的に検討する中で考えてほしいと思います。

「目標値」

会 長	この目標のここはどのようにして検討したのかという理由と根拠を先に説明して てくれませんか。
事 務 局	まず社会増減は、今のマイナス 55 人をゼロにするという目標でいきたいと思 い、ゼロという目標にしています。 暮らしの満足度指標は、現在、全年齢でも 30 代以下でも、それぞれ非常に高 い数値ですが、もう一段引き上げるという意味で、この数字自体には根拠はありま せんが、この数値であれば達成できると考え、数値を設定しました。 補足です。社会増減については、令和 5 年の基準値を 55 人マイナスとしていま すが、平均すると大体江田島市からマイナス 150 人ぐらい転居・転出で出ていきま す。そのうえで、社会増減、江田島市では毎年 400 人ぐらいの人が亡くなってお り、生まれてくるこどもは、70、80 人ぐらいです。このような状態で目標を設定す るのは難しいですが、説明したとおり、社会増減ゼロは努力でなんとかなるとい うのも非常に厳しいですが、なんとかしたいと思い設定しました。 そして、暮らしの満足度指標とまちの住みよさ指標、まちへの愛着指標ですが、 全年齢と 30 代以下には差があります。30 代以下は明らかに暮らしの満足度指標と まちの住みよさ指標、そしてまちへの愛着指標が 5%低かったです。それは全世代 と同じぐらいにしたいと思い設定しました。それぞれの指標について、現在の基準 値は、暮らしの満足度指標だと 62.5%あり、10 年取り組んで 10%ぐらひは上げたい と思い設定しました。まちの住みよさ指標についても同様です。まちへの愛着指 標については、もうすでに全年齢では 76.4%あります。これをさらに上げるとな るとハードルが高く、80%に上げることができれば達成できた方だと思い設定しまし た。感覚的ですが、そのように基準値を設定しました。
委 員	2 点確認があります。1 点目は、目標値は 4 案出ていますが、めざすまちの姿と 結びつけて設定していますか。 2 点目は、前のページの 16 ページにあった、重点テーマと紐づけた設定値なの かという点です。もし、めざすまちの姿と紐づけたのであれば、16 ページと 17 ペ ージの順番が違うと思います。
会 長	今の意見は並び方の話だと思いますが、17 ページのここは何か意図があります か。
委 員	この目標値が、また後で出てくるかと思いますが、資料 1-2 の 4 つのめざす姿に 紐づいた目標値であるならば、資料 1 の 16 ページと 17 ページの順番が変わるの ではないかという確認です。
事 務 局	目標値は、どちらかという、めざすまちの姿、全体ビジョンに紐づくイメージ で作っています。順番を入れ替えることも検討したいです。
委 員	30 代以下の目標値は、現時点で全年齢と比べると少ないため、30 代以下も確実 に上げていくという点は、非常に理解できます。ですが、30 代以下が、例えばまち への愛着指標であれば、59%から 80%に上がることを目標としていますが、全年 齢も同じ 80%を目標としている点に、多少違和感があります。30 代以下が 80%ま

		で上がるのであれば、全年齢もさらにもう少し上の数値になると思います。同じ数値にするのがよいのか考えた方がよいと思います。
会 事 務 局	長	これが達成できれば、全体もあがるのではないかという指摘ですね。
	局長	この部分の考え方は、現在アンケートを取った時、明らかに若年層の暮らしの満足度やまちの住みよさが低い点が、やはり非常に気になりました。この将来を担う世代は、暮らしの満足度、まちの住みよさが低く、普通に暮らしている市民の中で見た時でも低いです。考え方は、それを解消し、市民全体と同じぐらい、まちへの愛着の持ち方やまちの住みよさなどを若い人も感じ、世代間で差がないようにしたいという考えから、同じ数値に設定しています。
会 委 員	長	数値のロジックではなく、想いということでした。
	委員	外国人関係について質問です。人口指標の部分で、社会増減とひとくくりにしてありますが、転出と転入だと、目標や計画などで違う分野だと思えます。もし可能であれば、他の市町のこのような設定が分からず言いますが、転出を何人、転入を何人と設定した方がよいと思います。可能であればその方が、目標と計画それぞれの分野に特化して結びつくと思えます。
事 務 局	局長	そこについては、基本計画で具体的に考えていきたいと思いますが、やはり非常に難しい部分であり、この社会増減は年数によって違ってきます。先ほど社会増減が例年平均すればマイナス 150 人だといいましたが、令和 5 年の 55 人という数値は、実際、外国人市民が増えているのが多いかと思えます。それはなぜかという、令和 3 年は社会減が多めだったのですが、コロナにより外国人労働者がこちらに来れないことがありました。それが今、帰ってくる、戻ってくるということがあり、このようになっていきます。そのようなことも考えると、転入・転出とそれぞれ分けて計算すると、いろいろな要素がありなかなか難しいと思えます。総合計画全体の目標としては、社会増減ゼロという目標を掲げています。今後、基本計画の中で、各分野について取組を具体的に詰めていく時に、また目標値を設定しようと考えているため、そのような中でできるのかどうか検討したいと思えます。
委 員	委員	社会増減ゼロの捉え方ですが、参考に情報を 1 つ紹介したいと思います。総合計画ではないですが、過疎法に基づく過疎計画という計画があります。県内でいうと、全域が過疎地域である市町が県内に 10 市町あります。そのほとんどが過疎計画上、人口指標の目標ということで、社会増減の均衡を掲げている市町がほとんどです。若干下側にしても、このぐらいに抑えるという市町もありますが、大半は社会増減均衡を目標、水準として掲げています。ゼロという表現がどうかと思うのは、それだと数値だといくらなのかということになるからです。そこは言い方 1 つだと思います。
会	長	先ほど委員からもありましたが、他の過疎地域での人口増の要因は、外国籍の人が入ってきているということもあります。そのような中でいうと、日本の人でこちらに来る人は、やはりまだ少ないのが実情です。そのあたりも含めて、外国人が対処しないということではなく、学生は技能実習で入ってきますが、ここに住んで暮

らしていくという選択を主体的に特に行っている人は、まだそれほど実情は多くないです。それはそれで大きな課題であり、他の自治体もそうです。先ほども言いましたが、若い世代の暮らしの満足度指標を上げたいということだったため、やはり本来は難しいです。ですが、そのような人たちに私たちはアピールしていますという姿が見える必要があると思うため、検討してほしいです。

委員 17ページのまちの住みよさ指標について、確かに現状では52.6%と非常に低いですが、10年後の目標として頑張って65%という数値は、あり得ないと思います。確かに暮らしの満足度指標だと、単純にどちらも10%ずつ増えています。住みよいまちを作るわけですから、最終的にはこれが一番大事です。この指標の数値が65%だと、10年後が寂しすぎると思います。本来であれば、暮らしの満足度指標だと75%でもよいと思いますが、それでは確かに差があり過ぎます。少なくとも70%ぐらいないと、目標という言葉を使うことはできないと思います。でなければ消してしまうという極論です。

委員 委員の意見、非常によく分かりますが、私はこの目標を明確にし、ぜひ達成してほしい数値です。そのため、あまり無理をしない方がよいと思います。

委員 無理ではないと思います。一生懸命みんなで頑張って10年後めざしてきました。

委員 絵に描いた餅でよければ、それでもよいと思います。先ほども言いましたが、ぜひ達成してほしい目標とすると、私はあまり無理しない方がよいと思います。

委員 私は達成することが目的ではないため、それは違うと思います。達成するかどうかではなく、住みやすさを作ることが目的です。

委員 やはり私もイメージが非常に大事だと思います。65点より70点、70点より75点と点数ではないですが、やはりイメージ上65%よりは70%の方が、頑張りたいと思います。

会長 委員会としては70%でお願いします。

「施策体系」

－ 事務局より説明（記録省略） －

委員 分野の説明に付け加えてほしい内容が3点あります。1点目は、3福祉です。先ほど子育て世代のことをいいましたが、ここは確かにこどもたちの健康という点もあるかと思いますが、やはり場合によっては高齢者寄りかと思っています。健康長寿とよく言いますが、この言葉を入れてほしいです。

2点目は、4生活・環境です。環境については、日本全国で脱炭素化ということで様々な取組が行われています。ここに「脱炭素化の推進」という言葉を入れてほしいです。

3点目は、5安心・安全です。防災に向けた取組とありますが、防災・防犯としてほしいです。安心・安全は、防災だけではないです。全体的にすっきりすると思います。

会長 具体的な文言の提案がありました。いずれも検討してよい文言だと思いますが、

	江田島市がこの時点でできる回答をお願いします。
事務局	これらの分野については、各部課の担当者にすべて見てもらい、ここに書いています。先ほどの意見は重要だと思うため、検討したいと思います。
会長	各課に戻して意見を聞くことももちろんなのですが、委員会は委員会として意見を出すことは大事だと思います。正直にいうと、例えば、5安全・安心で、“・防犯”を入れることはあってもよいと思いますが、委員会としてどうですか。
委員全員	(同意)
会長	ありがとうございます。そして、4生活・環境の脱炭素化ですが、実はこの前の部分でも、全体の動きで脱炭素化という言葉は出てきているため、その言葉を入れることは、具体的でよいと思いました。 また、3福祉・保健の健康長寿という言葉についてです。9ページに健康寿命の記載がありますが、県内でも男性が21位、女性が23位で最下位です。江田島市においては、非常に重要な課題だと思います。委員会としては、そのような健康長寿という言葉は繰り返し込むことは、この計画書と一致していると思います。委員会としては、検討してほしいと強く要望するというところでまとめてよいでしょうか。
委員全員	(同意)

【将来像について】

－ 事務局より説明（記録省略） －

委員	4案ありますが、誰が考えたのですか。
事務局	言葉を取りまとめたのは事務局です。いろいろな人が集まる、安心して暮らす、みんなが輝き活躍できる、夢など、入っているエッセンス、キーワードは、市民のワークショップやアンケートから抽出したものばかりです。私たちは事務的に言葉をまとめました。
委員	資料1-1の2ページの1-2計画の特色で、「めざすまちの姿」として「どの世代の人々にも不変的な」という言葉があります。今議論している「めざすまちの姿」の4案ですが、これは10年後の姿という設定で書いてあるとは思いますが。この2ページの表現を斟酌すると、江田島市はこのような姿をずっと未来永劫めざしていくとも読み取れます。どちらの意味で捉えたらよいですか。10年後の姿を指しているのであれば、不変的という言葉を使うことは難しいと思います。
事務局	「めざすまちの姿」は、あくまでも第3次総合計画の姿であり、10年後の姿となります。2ページについては、確かに言われるとおり、不変的という言葉はどのようなかということもあると思います。どの世代にも共通など、違う言い方を考えようと思います。
委員	案1と案4がよいと思いましたが、この2つをあわせた案5を提案します。案4前半の“恵”み多き島は、江田島市で使っていました。これは全市で継続して使っているため、“恵”み多き島を取り、案1につなげる形です。「恵”み多き島で安心して

		暮らせる豊かな島「えたじま」です。そうすると、説明文は案4の方がよいと思います。全体的に今回皆さんで話した内容が入っていると思います。
委 員	員	若者が将来も住み続けて、ここで働きたいということになると、現状、働き先があまり無いです。収入源を考えると正直厳しいと思っています。新しいことを考えて、自分で仕事を作っていくことが大事だと思っています。そうなった時に、私の中では、やはりチャレンジする前向きな若者が来て、この島でチャレンジしたい、やってみたいと思えるような文言も入れてほしいです。
会 長	長	案3に入れるということですね。
会 長	長	わかりました。では1人1票で投票してください。 案1は3人、案2は4人、案3は4人、案4は3人、案5は1人のため、案2と案3の決選投票を行います。 案2は10人、案3は6人のため、案2に決まりました。 ただ、案2で1点要望があります。「みんな（市民、移住者、事業者、外国人など）」の部分で引っかかる部分が、外国人は市民ではないのかということです。カッコ内の表現を考えてほしいです。移住者は市民ではないのかなどと言われそうな気がします。この部分の思いは分かりますが、ここは表現を検討してほしいと思います。
会 長	長	目次ですが、「序論があり突然10年後のまちづくりという章立て」はどうかと思います。これは個人的感覚のため、検討してもらえたらありがたいです。第1章は序論ではなく「第3次江田島市総合計画」、第2章は江田島市の現状ということで、「まちづくりを取り巻く状況、これまでのまちづくりの振り返り」を入れて、第3章を「10年後のまちづくり」とした方がよいと思いますが、これは作りの問題ですので、序論の後、突然第2章で終わるのはどうかと思うため、検討してほしいです。

(2) 策定スケジュールについて

－ 事務局より説明（記録省略） －

4 その他

委 員	員	提案というか可能であればですが、市民ワークショップの案内を、せっかくなので学校の児童に持ち帰らせて、保護者が見ることができるようにしてほしいです。こども園の世帯には、先ほど市役所の人に配布をお願いしました。世帯数は把握していませんが、みんなに見てほしいと思います。学校から児童が持って帰るよう、可能であればお願いしたいです。
委 員	員	配布するよう伝えます。
委 員	員	分かりました。

5 閉会

以上